

くりた 栗田 ちょどう 樗堂 (1749~1814)



俳人。商人。松山城下(現、松山市)出身。本名は政範。明和2(1765)年、南松前町(現、松山市)の造り酒屋・廉屋こと栗田家の婿養子となった。

家業の酒造業で財を成したほかに、明和8(1771)年より大年寄役見習、その2年後に大年寄となり、享和2(1802)年、53歳のときに病のため辞したが、通算20数年にわたり松山藩の要職を務めた。

また一面、俳諧に親しんで、天明6(1786)年、当時の全国諸芸の達人を示した書『名人異類鑑』に「俳諧上々、廉屋与三左衛門」と記されている。また、京に上って加藤暁台に学び、近世伊予第一の俳人といわれた。小林一茶は、その師・二六庵竹阿の旅の跡をたどり、寛政7(1795)年とその翌年と2度も樗堂を訪ねている。

略歴

寛延2(1749)年	松山城下の北松前町の造り酒屋・後藤家に生まれる。
明和2(1765)年	造り酒屋・栗田家の婿養子となる。
明和8(1771)年12月	町方大年寄役見習となる。2年後には、町方大年寄役となる。
天明6(1786)年	全国諸芸の達人を示した書『名人異類鑑』に「俳諧上々、廉屋与三左衛門」と記される。
天明7(1787)年	紀伊国(現、和歌山県と三重県南部)、大和国(現、奈良県)、京(現、京都府)などを旅する。 このとき、京の加藤暁台を訪ね、俳諧を学ぶ。
寛政3(1791)年12月25日	町方大年寄役を退任し、大年寄格となる。
寛政7(1795)年1月15日	小林一茶来訪。翌年にも再度来訪
寛政8(1796)年2月4日	町方大年寄役に復帰
寛政12(1800)年	温泉郡味酒村(現、松山市)に庚申庵を営む。
享和2(1802)年7月~8月 9月	安芸国御手洗島(現、広島県呉市)の芭蕉塚を訪ねる。 町方大年寄役を引退
文化2(1805)年	『庚申庵記』を著す。
文化4(1807)年	安芸国御手洗島で隠居生活を送る。
文化11(1814)年8月21日	66歳で永眠。墓所は松山市萱町の得法寺と広島県呉市豊町御手洗の満舟寺 (肖像画：『萬家人名録 二編』 松山市立子規記念博物館蔵 より)

〈関連図書〉

- ・景浦勉『伊予俳諧史』 伊予史談会 1958年
- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』 愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『愛媛国文研究 第48号』 愛媛県高等学校教育研究会国語部会 1998年
- ・NPO法人GCM庚申庵倶楽部『庚申庵へのいざない~復元なった松山の俳人・栗田樗堂の草庵~』
アトラス出版 2003年
- ・栗田樗堂研究会『栗田樗堂遺墨集』 愛媛新聞メディアセンター 2004年
- ・松井忍ほか編著『伊予俳人 栗田樗堂全集』 和泉書院 2020年

〈主な収蔵資料〉…(P218, 101)

〈ゆかりのある場所〉…(P299~300, 144~145)

〈関連施設〉…庚申庵史跡庭園

〒790-0814 愛媛県松山市味酒町2丁目6-7 TEL: 089-915-2204